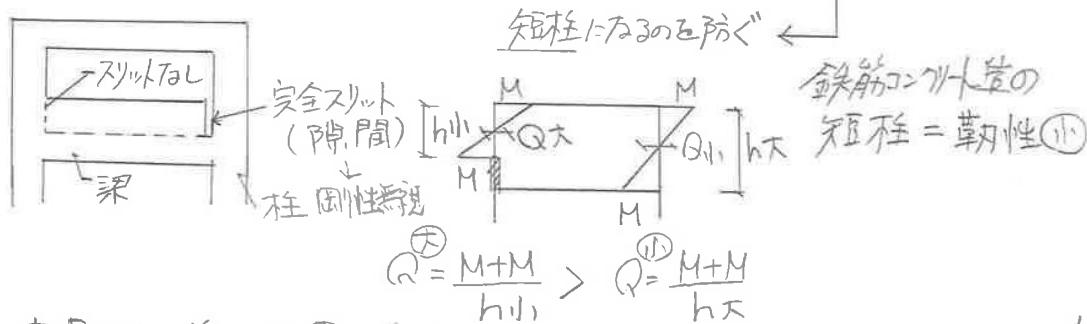


平成30年 No.24 構造計画

1. 鉄筋コンクリート造における柱に設ける完全スリット → 腰壁や垂壁の影響を無視できる
2. 高さ100mを超える鉄筋コンクリート造 → 高強度材料により建設が可能になった
3. 複層耐力壁の位置と浮き上げ → 架構内の中央部に設ける方が有効
4. 屋根葺き材の風による吹上げ力の検討 → 中央部より縁の方が大きい

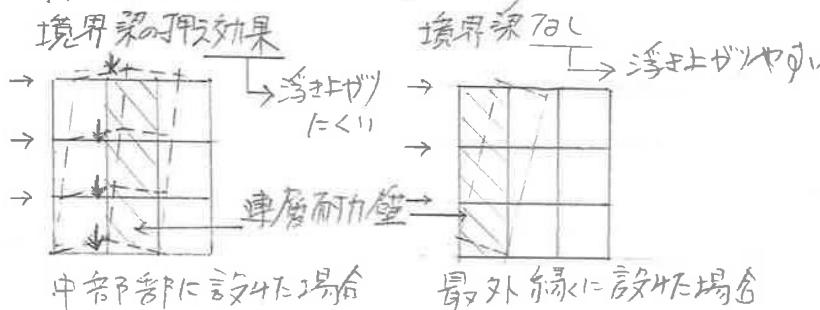
① 柱に設ける完全スリット 但し腰壁や垂壁の影響をなくす



② 高さ100mを超えるコンクリート造を実現する材料

[高強度コンクリート : $f_c = 36 \text{ N/mm}^2$ を超えるコンクリート (JASS5)
 超高強度コンクリート : $f_c = 60 \text{ N/mm}^2$ を超えるコンクリート
 $f_c = 200 \text{ N/mm}^2$ のコンクリートもあれば
 高強度鉄筋 : 降伏点強度が 490 N/mm^2 , 685 N/mm^2 など
 超高層建物 → 大きな力を作用する → 高強度の材料]

③ 複層耐力壁の位置と浮き上げ



④ 屋根葺き材の風による吹上げ力 → 中央部 < 縁部

